

aGFolder

1.2.7

1 aGFolderとは

2 動作条件

3 インストール方法

4 使い方

4.1 ファイルの新規登録と開き方、終了方法

4.2 世代の扱い方

4.3 一覧の再表示

4.4 削除済ファイル

4.5 ライセンス登録

5 TIPS

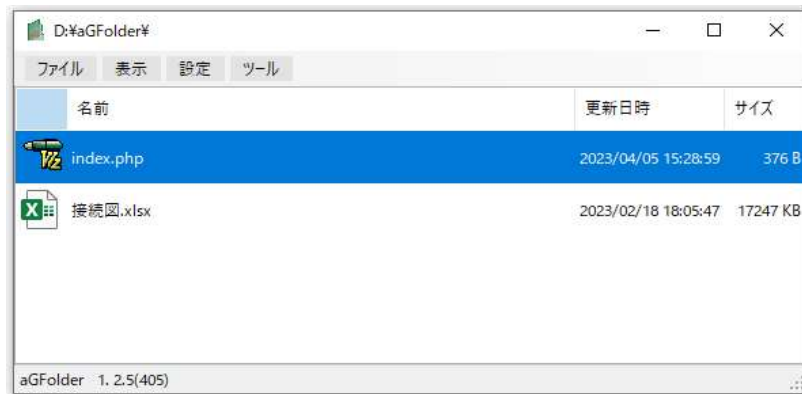
6 来歴

不具合への対応方法など、
本アプリケーションに関するお問い合わせは、
eメールにて以下にご連絡ください。
digitalforesightjp@gmail.com

1. aGFolderとは

Windowsパソコンで文書を作成しているときに、
操作ミスで文書ファイルを壊してしまったときに、
どこをどう戻してよいのか、修復に困ることがあります。
このようなファイルに対してaGFolderを使います。
aGFolderは「自動的に世代バックアップファイルを作る」
アプリです。

以下が表示されるWindowの例です。



Windowsには「以前のバージョン」機能があり、壊れたファイルを復旧できますが、どの時点まで戻るのが事前に把握することが難しかったり、使うにあたっての設定でWindowsの知識が必要だったりします。
対して、aGFolderはファイルを開く直前でファイルを自動保管しますので、いつの時点に戻るかわかりやすいという特長があります。

復活が必要になりそうなファイルは、利用者が明示的にaGFolderに登録しておいて、編集するときはエクスプローラと同じような操作で、aGFolderから開きます。つまり、Windowsの「以前のバージョン」と比べて、単純で分かりやすいバージョン（世代）管理ができます。

aGFolderで使う以下の用語をもって、aGFolderの機能を説明します。

世代	ファイルを開く直前でコピーしたファイルを ファイルの最新更新日時を名称として保持します。 この名称が世代名です。
復活	ファイルが壊れてしまった場合に、 保持されている以前の世代を復活できます。 復活の際は、最新状態のファイルも世代として保持されます。
	登録から削除抹消したファイルは、 ファイル一覧に表示されなくなりますが、 「削除済ファイル」として復活できます。 (「完全削除」すると復活できません)

2. 動作条件

aGFolderはWindows10もしくはWindows11で動作します。
(Windows7など古いバージョンのWindowsでは動作保証していません)

aGFolder.exeを配置するHD/SSDに十分な空き領域があるかご注意ください。
(登録ファイル数×保存世代数を保存する大きさが必要です)

3. インストール方法

aGFolderは、ZIPファイル形式でダウンロード等の方法にて提供されます。

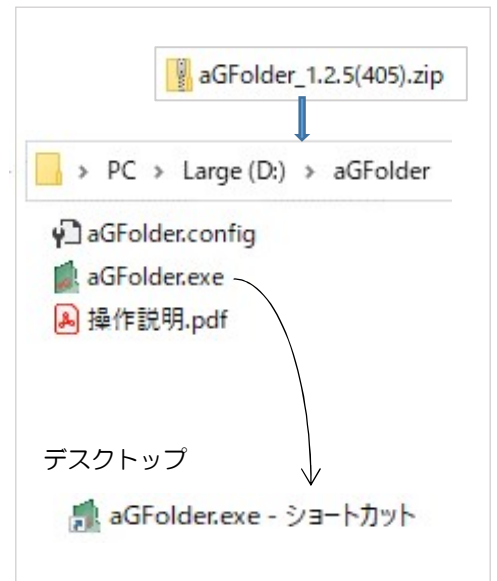
入手したZIPファイルを任意の場所に展開して、
aGFolder.exeを起動すれば、aGFolderは使用開始できます。
(レジストリなど、Windowsシステムへの登録がないため、
アンインストールの専用操作は不要です。
展開先のフォルダ丸ごと削除すれば余計な残骸は残りません。)

例えば、D:¥aGFolderという名前のフォルダーにZIP展開し、
aGFolder.exeを配置して、
aGFolder.exeのショートカットをデスクトップに作ります。
このショートカットをダブルクリックで起動すれば、
D:¥aGFolder下でファイルの世代管理ができるようになります。

また、配置したフォルダ（例ではD:¥aGFolder）を丸ごとコピーすることで
登録済ファイルと各世代をバックアップできます。

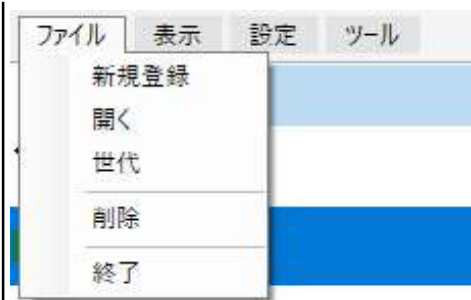
【留意事項】

aGFolderは複数同時起動ができません。
複数のaGFolderを作ると、それぞれのaGFolderを起動したときに
ファイルの登録先は別となり、登録先を間違える危険があります。
複数のaGFolderを作る場合はご注意ください。



4. 使い方

4.1 ファイルの新規登録と開き方、終了方法など



① [ファイル]→[新規登録]

で、登録するファイルを選択して、[開く]にて新規登録します。
既に登録済のファイルと同じファイル名は登録できません。

登録できるファイル数と保存できる世代数の上限は

- ・ライセンス登録した正規版では、 99ファイル×9世代
- ・ライセンス登録のない試用版では、 3ファイル×3世代

② 登録したファイルを行を選択した状態で

[ファイル]→[開く]

右クリック→[開く]

あるいは、行のダブルクリックで、選択ファイルを開きます。
起動するアプリは、Windowsにてファイル拡張子に結び付いた
アプリになります。

選択ファイルを開く直前に、
ファイルの更新日付を名称とした
世代ファイルが作成されます。
(開いたファイルを更新保存しなければ、
ファイルの更新日付は変わらず、次に開く
時には世代ファイルは作成されません。)

③ [ファイル]→[削除]

で、選択したファイルをaGFolder内から削除します。

[削除]では、世代ファイルはまだ削除されていませ
ん。 復活は可能です。

④ [ファイル]→[終了]

で、aGFolderは終了します。

4.2 世代の扱い方



①[ファイル]→[世代]

で、選択したファイルの保存されている世代が表示されます。

(保存世代上限数を超えるものは古い世代から順に自動削除されます)

この一覧で、世代の行を選択して

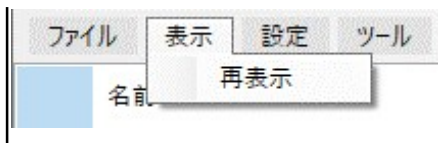
② [選択世代を復活] で、ファイルの復活ができます。(ファイル一覧に反映されます)

③ [選択世代を削除] で、選択した世代の削除ができます。

【留意事項】

復活や削除では、ファイルの編集アプリがそのファイルを開いた状態でも動作しますが、
ファイルを開いているアプリがファイルの排他制御などを行っている場合、
aGFolderやアプリの異常終了、ファイル消失・破損の危険があります。

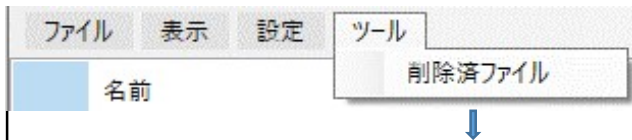
4.3 一覧の再表示



① [表示]→[再表示]

で、ファイル一覧を表示しなおします。

4.4 削除済ファイル



① [ツール]→[削除済ファイル]

で、削除済ファイルを一覧表示します。



ここでは、

② ファイルを選択→世代を選択→[復活]

にて、ファイル復活させることができます。

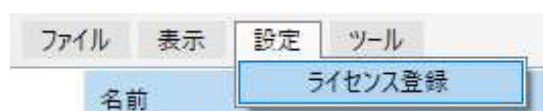
③ [全ファイルの完全削除]

では、削除済ファイルを世代丸ごと完全削除して、復活不能にします。

(Windowsの「ごみ箱を空にする」と同様の考え方です。

ファイルの削除だけではDiskは空き容量は増えないので、時折[完全削除]することを推奨します。)

4.5 ライセンス登録



① [設定]→[ライセンス登録]

aGFolderは、初期状態では試用版として機能限定（最大3ファイル✕3世代）ですが、購入したライセンスキーを設定することで機能限定を解除できます。

なお、ライセンスキー登録では、

ライセンスキーを入手した時のメールアドレスとともに入力します。

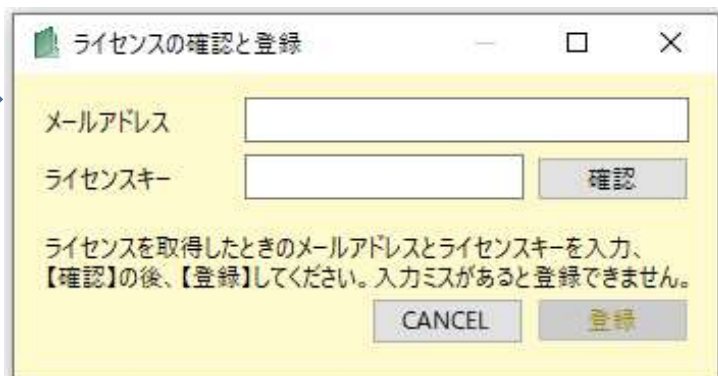
【留意事項】

ライセンスキーは利用者1名が使用するパソコン1台に対して、使用権をお渡しするものです。
(ライセンスキーは利用者のメールアドレスと対になって、正規版として判定されますので、
かならず、入手した時のメールアドレスと対にして登録・保管してください。)

なお、個人向けのライセンスキーの入手方法は、Vectorのレジサービスをご利用ください。

複数のライセンスの一括導入など、企業様向けの場合は、

開発元 (digitalforesightjp@gmail.com) までご相談ください。



5. TIPS

TIPSではaGFolderを使った便利な使い方を紹介します。

(1) aGFolderをCloud上に設置すると、異なるPCで世代管理を共用できます。

aGFolderはアプリのフォルダ内にファイルのデータと世代も保存するため、Windows10/11のパソコンであればaGFolderフォルダをCloud上に配置すれば、異なるWindowsPCで同一のファイルを世代管理できます。

データ量制限に問題がなければ、無償Web版Officeや無償OneDriveと組み合わせて利用することで、かなり便利になります。

【補足説明】

- ①この場合、利用PCが異なってもインストール先が同一なので、ライセンス違反にはなりません。
- ②同時に複数のPCから編集は推奨できません。(Cloudにおける排他制御の制約を受けるので)
- ③プログラムおよびファイルデータの読込/書出時間が遅くなるので、レスポンスが遅くなります。

(2) Cloud設置のaGFolderをiPad/iPhoneから使う

Windows10/11以外のOS化ではaGFolderの機能は利用できませんが、

aGFolderの下位フォルダに保管されている以下のデータは直接参照/編集が可能です。

データ	配置してあるフォルダ名	補足説明
登録ファイルのソースデータ	source	
登録ファイルの世代データ	generations¥登録ファイル名	ファイル識別子はないので コピーしたファイルに 識別子を付ける必要があります。

ExcelやWordのファイルであれば、参照・編集するアプリはMS365が推奨です。

6. 来歴

日付	修正内容	対応バージョン
2023/4/18	最初の公開バージョンです	1.2.6
2023/7/8	ファイル一覧の機能を追加・変更・不具合修正しました ・選択したファイルをダブルクリックで開くようにしました。（不具合修正） ・アイコンのHOVER表示を消去しました。 ・ファイル更新時刻の表示を修正しました。（時刻表示 1 桁→2 桁） ・ファイルサイズの表示値でソートしないようにしました。 ・保存先ドライブの空きスペース量を表示するようにしました。	1.2.7
2023/7/24	TIPSを記載	1.2.7